

計画区	署	樹立年度	保護林名称	見直し実施後の保護林区分	5年の要素							R8年度モニタリング調査に係る留意事項	シカ	クマ	病虫害
					ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ				
磐城	磐城	4	阿武隈高地生物群集保護林	生物群					○			ナラ枯れが確認されていることを踏まえ、インターネット等で入手可能な衛星画像等を活用し、保護林内及びその周辺における面的な被害の拡大状況などの把握に留意する。 前回調査では高木層を形成する樹種の稚樹や実生がわずかな状況であったことから、稚樹や実生の生育状況等に留意する。			○
磐城	磐城		木戸川コナラ希少個体群保護林	希少	○		△		○			保護対象種であるコナラにおいて、ナラ枯れが確認されたことを踏まえ、インターネット等で入手可能な衛星画像等を活用し、保護林内及びその周辺におけるナラ枯れの面的な被害の拡大状況などの把握に留意する。 コナラ林からモミ林に遷移が進行しつつあることが確認されていることから、遷移状況に留意する。また、次世代を担うコナラの稚樹が確認されていることから、稚樹の生育状況に留意する。			○
磐城	磐城		津島マツ遺伝資源希少個体群保護林	希少								帰還困難区域に指定されており、2010年以降現地調査未実施となっている。 R8年度については、現地においてモニタリング調査を実施することを検討する。			
磐城	磐城		赤井岳ヒノキ遺伝資源希少個体群保護林	希少					○			保護対象種ではないがアカマツやコナラでマツ枯れ及びナラ枯れが確認されていることを踏まえ、インターネット等で入手可能な衛星画像等を活用し、保護林内及びその周辺におけるマツ枯れ及びナラ枯れの面的な被害の拡大状況などの把握に留意する。 次世代を担うヒノキの稚樹や実生が確認されていることから、稚樹等の生育状況に留意する。			○
埼玉	埼玉	4	秩父山地生物群集保護林	生物群					◎		○	保護林内及び保護林周辺でニホンジカの食害が拡大しており、すべての調査プロットで低木層及び草本層の植被率が減少傾向にあるため、被害状況に留意する。	○		
神奈川	東神	4	丹沢山地生物群集保護林	生物群					◎		○	ニホンジカによる食害によりすべてのプロットで下層植生の植被率が減少傾向となっていることから、被害状況に留意する。 ナラ枯れが発生していることを踏まえ、インターネット等で入手可能な衛星画像等を活用し、保護林内及びその周辺におけるナラ枯れの面的な被害の拡大状況などの把握に留意する。	○		○
神奈川	東神		西丹沢ブナ希少個体群保護林	希少					◎		○	ニホンジカの食害が著しく、保護林全体で林床植生が僅かであったことから、被害状況に留意する。 ナラ枯れが発生していることを踏まえ、インターネット等で入手可能な衛星画像等を活用し、保護林内及びその周辺におけるナラ枯れの面的な被害の拡大状況などの把握に留意する。 次世代を担うブナの稚樹や実生がほとんど見受けられない状況であったため、稚樹等の状況に留意する。	○		○
神奈川	東神		西丹沢モミ希少個体群保護林	希少					◎		○	ニホンジカの食害による被害により林床植物の植被率が低下していることから、被害状況に留意する。 保護対象種ではないが、ミズナラでナラ枯れが発生していることを踏まえ、インターネット等で入手可能な衛星画像等を活用し、保護林内及びその周辺におけるナラ枯れの面的な被害の拡大状況などの把握に留意する。 次世代を担うモミの稚樹や実生がほとんど見受けられない状況であったため、稚樹等の状況に留意する。	○		○
神奈川	東神		箱根ヒメシャラ・ハコネコメツツジ希少個体群保護林	希少					△			ヒメシャラ及びハコネコメツツジの生育状況に留意する。ニホンジカの食害等について、H28年時点で保護対象種では大きな被害が見られていないが、全調査プロットにおいて痕跡(剥皮、食痕、糞等)が確認されているため、被害状況に留意する。	○		
中越	中越	4	笠堀カモシカ希少個体群保護林	希少								既存の調査資料(環境省の植生図や県教育委員会の越後・日光・三国山系カモシカ保護地域特別調査報告書など)及び衛星写真を活用し、カモシカの生息環境の特性を把握に留意する。			

モニタリング間隔 5年の基準】(要領第5-2) ア:遷移の途中段階にある保護林、イ:復元を行っている保護林、ウ:保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林、エ:保護林外部からの影響を受けている保護林

オ:鳥獣・病虫害被害及び移入種による影響が顕著にある保護林、カ:温暖化による影響が顕著にある保護林、キ:その他、短期間で大きな変化が想定される保護林